

あなたのペットは大丈夫？肥満危険度チェック

- 1歳時より体重が重い
- ペットの正確な体重を知らない
- 毎日の食事量を決めていない
- 「コロコロしていてかわいいね」と言われたことがある
- 避妊・去勢をしている
- 人と同じものをよく食べる
- 歩きたがらない
- 階段の昇り降りができなくなった

ひとつでもあてはまる方は要注意！

次に紹介する理想的なペットのBCS※と比較して、現在のペットの状態を確認しましょう。
 ※BCS(ボディコンディションスコア)とは？
 ペットの体重だけでなく、体型・体格を視覚的に判断し、さらに触診によって皮下脂肪の蓄積具合を判断する評価基準のことです。5段階表示で削瘦を1、理想体重を3、肥満を5と評価し、状態に合わせそれぞれ中間の値も使用します。

犬のボディコンディションスコア(BCS)	理想体重(%)	猫のボディコンディションスコア(BCS)	理想体重(%)
BCS3:理想体重	95~106	BCS3:理想体重	95~106
	体脂肪(%)		体脂肪(%)
	15~24		15~24
	肋骨		肋骨
	薄い脂肪に覆われ触ることができる		わずかな脂肪に覆われ触ることができる
	腰部		骨格
	薄い脂肪に覆われなだらかな輪郭をしており、骨格は触ることができる		なだらかな隆起を感じられる
	体型		体型
	横から見ると腰部に凹みがあり、上から見ると腰に適度なくびれがある		腹部はごく薄い脂肪に覆われ、腰に適度なくびれがある

いかがでしたか？「厚い脂肪に覆われて、全く肋骨に触れない」「くびれがなく、腹部が垂れ下がっている」という場合には、ウエイト・マネジメント(体重を管理すること)が必要かもしれません。

当院では体重過剰、または肥満しているペットちゃんを対象に、体重管理用フードによる食事管理「ペトスリムプログラム」を行っています。詳しくは病院スタッフまでお気軽にご相談ください。

ウエイト・マネジメントとは減量することだけを意味するものではありません。日ごろから適正体重を維持し、肥満にならないように管理をすることが重要です。

あけましておめでとうございます。

今年も皆様と動物達にとって素敵な1年となりますよう、スタッフ一同心よりお祈り申し上げます。

さて今回のテーマは、年々増加傾向にあるペットの肥満についてです。



肥満は病気 だうで知っていますか？

肥満は犬、猫ともに動物病院で非常に多く見られる疾患です。大切なペットと長く幸せに過ごせるように、肥満について正しく理解し、理想的な体型を維持していきましょう。

肥満とは

肥満とは「体脂肪がある程度以上増加した状態」のことです。一般には体脂肪の増加により、理想体重より15%以上体重が重い状態が「肥満」と位置づけられています。例えば犬の場合で、もし体重が1.2kg重ければ、これは人間で例えると8.4kg重いのと同じこととなります。

肥満は幼いときからの食習慣や生活習慣によって引き起こされ、徐々に進行していくため気づきにくいのが特徴です。



肥満のリスク

1. 様々な病気を誘発する

人間の肥満と同じように、動物でも肥満は万病の元といえます。中でも肥満との関係性が特に顕著なのは、関節炎と心臓病です。また、肥満はすでにかかっている病気を悪化させることがあります。

2. 手術にともなう危険が高まる

全身麻酔で行う治療の際に、麻酔がかかりにくく覚めにくくなるため、肥満は大きなリスクになります。また、開腹手術などでは皮下脂肪が手術の妨げになるほか、傷口が治りにくくなり、治療が長期化する場合があります。

3. 出産にともなう危険が高まる

体脂肪が適正範囲を超えている場合、発情期間が乱れたり、受胎率が下がることがあります。さらに、脂肪の蓄積が難産を引き起こしたり、帝王切開を行う場合にかかる負担も大きくなります。また、体脂肪が少なすぎる栄養不良では、分娩、育児に障害が起こることが知られています。

